

平成30年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（日本語科学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>出題する問題は、2種類に大別される。1つめは、大学院で日本語とその関連領域を科学的に研究する際に必要な基本的知識を習得済みかどうかを確認するための設問である。2つめは、具体的事例の分析を想定した設問であり、研究を十分に遂行する能力の有無を見定め、論理的表現力や応用的な説明能力の高さを測るためのものである。いずれも、日本語を主たる対象に科学的な言語研究を行う上で必須となる知識と資質について受験者の準備状況を確かめることを主たる出題の意図とする。</p>

平成30年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 日本語科学 全1枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 1枚、解答用紙 3枚を配付する。

問1から問3まで全問に日本語で解答しなさい。設問はそれぞれ別々の解答用紙に記入すること。

問1 以下の用語のうち4つを選んで、日本語の例を挙げるなどして具体的に説明しなさい。なお、選択した用語の記号を最初に付すこと。解答の順序は問わない。

- a. インポライトネス(impoliteness)
- b. メタ言語的否定(metalinguistic negation)
- c. 二重ヲ格制約(double *wa*-constraint)
- d. ベネファクティブ構文(benefactive construction)
- e. 気づかない方言
- f. 会話の推意(conversational implicature)
- g. ソノリティ(sonority)
- h. アクセント核(accent nucleus)
- i. 能格性(ergativity)
- j. 線条性(linearity)

問2 日本語の指示詞にはコ系・ソ系・ア系の三対立を想定するのが一般的であるが、「あちらこちらを探す」という表現や、先行文脈がないままに用いる「それでは授業を始めます」など、何かを直示したり照応したりしていると考えにくい用法が見られる。日本語指示詞の直示(deixis)や照応(anaphora)の機能を踏まえ、これらの事例を説明しなさい。

問3 「クッキーを焼いた残り」「鉛筆を削ったかす」「太郎が論文を書く後ろ」などの表現における下線部の名詞は先行する部分の修飾を受けているように見えるが、両者の間では通常の格関係は想定しにくく、「外の関係」の関係節構造に分類されることもある。一方で、タ形と非タ形を交替させた「クッキーを焼く残り」「鉛筆を削るかす」「太郎が論文を書いた後ろ」などでは適格性や同義性が損なわれてしまう。この現象を説明しなさい。